

# 第85号

発行日/令和6年3月1日  
発行所/青森県立八戸西高等学校  
PTA広報委員会  
電話 0178-27-5365  
HP / <https://www.hachinohenishi-h.asn.ed.jp>  
印刷所/株式会社オダプリント

# 西峰

せいほう

## 贈る言葉



校長 宏至 坪

三年生の生徒の皆様、並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。生徒の皆さんは、西高校での高校生活三年間は充実した生活だったでしょうか。皆さんの高校生活は、新型コロナウイルスがまだ収束していない中に始まり、二年生の時は、修学旅行は実施できなかったものの、他の学校行事などはコロナ前のよう

らを心に持ち、それを達成するために努力を重ねていただきたいと思います。そこで、皆さんに、「忍耐は苦し、されどその実は甘し」という言葉を贈ります。この言葉は、福島県出身、野口英世が好んでいた言葉です。「苦難を耐え忍んで、初めて成果が得られる」という意味です。

過ごし、三年生になり、学校生活がコロナ前の状況に戻りました。そのようなかで高校生活の思い出ができたでしょうか。保護者の皆様も通常の教育活動ができません、大変な思いをされたことでしょう。それでも、最後の一年間は、コロナ前の教育活動が実施できるようにになりました。三年間本校の教育活動にご協力いただき有り難うございました。

野口英世は幼少時の事故で、左手が不自由になりましたが、地元の医師の手術によりある程度回復したことから医者への道を志します。大学を出ていませんが、二十一歳で医師免許を取得します。その後、日本からアメリカへ渡り、ロックフェラー研究所で働きました。最後は黄熱病の研究で西アフリカへ行き、五十一歳の時、黄熱病にかかり亡くなりました。彼は、「人を助けたい」という思いから、寝る間も惜しんで研究に没頭したと言われています。

# 祝卒業

## 3 years



PTA会長 河村 泰輔

八戸西高等学校のすべての学業を修め、本日、卒業証書授与式の良き日を迎えられる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、大きな節目となる今日を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。そして三年間にわたり、PTA活動や部活動にご協力いただきましたこと

と、深く感謝申し上げます。卒業生の皆さん、西高での三年間はどのように過ごしたか。充実した高校生活を送ることができましたか。

り越えられず周りの仲間にも助けを借りながら乗り越えて来たのだと知りました。毎回難題を乗り越えるたびに一回りも二回りも大きくなっていき、人としての優しさや人間味も増していったように思います。卒業生の皆さんにも様々な難題が起こっていき、自分自身に問いかけてみてください。周りの仲間と相談するのもよし、決断をするたびにも一回りも二回りも大きくなる自分を感じられると思います。すべては自分次第です。皆さん次第です。応援しています。頑張ってください。

## 三年間を終えて



三学年委員 長戸 美

振り返ると、あっといふ間の三年でした。一学年の頃は保護者としても活動する場がほとんどありませんでした。二学年になると活動が徐々に戻り、なにより修学旅行を実施できたことは、子供た

ちにとつてはもちろん保護者としても喜ばしい事でした。三年間になるとイベントも増えてマスクの着用が緩和され、子供たちの表情を直に見ることができて成長を感じたりもしました。

さった皆さんには本当に感謝しかありません。コロナ禍で人とのコミュニケーションの大切さを忘れてしまいましたが、PTA活動を通して、たくさんの方々と出会い交流できたことは、私にとつてかけがえのない財産になりました。感染症の蔓延で一度は縮小された活動を再開して、来年以降の活動がより良いものになることを祈っています。行け！西高PTA！



三学年主任  
三上 有之

「東大も京大も阪大も来ませんが、メルボルン大学はリクルートに来ます。」民間人校長である日野田直彦氏が着任、その三年後の二〇一七年には、海外の大学に三十六人が合格した大阪の公立高校、箕面(みのお)高校。

このような内容の本「なぜ偏差値五十の公立高校が世界のトップ大学から注目されるようになったのか」という刺激的なタイトルが目にとまったのは、考査の監督である教室を訪れた日のこと。その常識にとらわれない自由な発想で生徒の目を海外へ向けさせる情熱にあふれているが、その背景には、帰国子女である日野田氏自身の「日本の高校生は、頭が良くモラルが高いにも拘わらず、発言できない。議論できない。発問できない」という三重苦を背負っている。という危機感があった。日野田氏の素晴らしい所は、英語力以前

に必要となる「世界のトップエリートと勝負ができるくらいの思考力」をまず生徒に身に付けさせたことだ。

私は、授業の中でよく言ったものです。「大学に行きたいという人は多いが、海外の大学はどうですか。」と。最近、これに関連した本が書店にも並ぶためうすうす気づいている人も多いと思いますが、高校卒業後に海外の大学を目指す人が少しずつ増えているのです。

普通科四十七回生・スポーツ科学科二十一回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。自分で決めた進路ですから、自信と誇りを持って進んでください。そしていつの日かもつと学びたいという気持ちが芽生えたら海外へも目を向けましょう。各自の専門分野の最先端は海外という可能性もあるのですから。一年次より「学び続けよう！」という学年モットーを皆さんに訴え続けてきました。卒業を目前に控えた今、三沢基地内大学へ進学する人や、ワーキングホリデーを使い海外で働く人など、西高生の中にも少しずつ海外のアロマが感じられることを内心嬉しく思っています。



二学年主任  
浪打 東彦

令和六年一月一日の日中は穏やかな天気で、神事の合間に社殿から見える境内は、たくさんの方の参拝者で賑わっていた。しかし夕刻、目に飛び込んだ

できたテレビの緊急速報は、能登半島での大地震であった。東日本大震災を経験している者にとって、北陸の方々のご苦労はいかばかりかと心が痛む。被害を受けられた皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

私達は常に「苦難」困難「災難」と隣り合わせで生活している。「無難」な生活などない。だからこそ平常な生活がいかに貴重であるかを学ぶことができる。

上皇后陛下はかつて、「幸せな子」を育てるのではなく、どんな境遇におかれても「幸せになれる子」を育てたい。という御言葉を述べられた。生徒諸君、これからの長い人生、難と向き合うことはいくらかもある。それをひとつひとつ乗り越えていこう。ほんの少しづつではあるが成長している。失敗も成長のひとつ。君たちの努力を見守っている人は必ず存在し、手を差し伸べてくれる。その結果、自分は一

人ではないことに気づき、どんな環境においても幸せを得られる人間になっていく。難が有ることは「有り難い」のである。

私もひとりの親として、石川県で働く息子を八戸から見守っていく所存である。



一年間を振り返って  
各学年主任から

卒業する皆さんへ  
メッセージ



一学年主任  
菊池 敬

皆さんの卒業を心からお祝いします。

これまでの三年間、多くの困難や挑戦に立ち向かい、成長してきたことと思います。高校生活は、

勉学だけでなく、友人との絆を深め、様々な経験を積む大切な時期であったと思います。これまでの「努力」が、将来の「礎」であると信じています。

また、家族や友人、教職員など皆さんの成長を支えるために多くの時間と労力を費やしてくれました。感謝の気持ちを忘れず、それが人に対する「思いやり」になることを願います。

卒業生の皆さん、これからの人生が輝かしいものとなることを心から願っています。どんな困難にも立ち向かい、自身を信じて進んでください。皆さんの成功を心から祈念しています。

自分自身を成長させてきた努力を「継続」することが大切です。その姿勢は、必ずや将来の「成功」に繋がると考えます。

卒業はゴールではなく新たなスタートです。こ

最後に、「夢」を持つことです。夢は人生を

# P T A 各委員長から

## 健全育成委員会



委員長 光幸 奥

### 一年間の活動をふりかえり

健全育成委員として二年目、街頭指導も昨年とは違う視点で見えてくる事がありました。横断歩道を通る車や地域のボランティアの方々のおかげで生徒達が安全に安心して通学出来ているのだと。我々は年二回の交通安全街頭指導ですが、ボランティアの方々や通勤で高校前を通る車は毎日のように生徒に気を配って下さっている事を改めて本当に感謝致します。今後も微力ながら生徒と地域の安全の為、活動していきたいと思えます。

## 研修委員会



委員長 真弓 清水

### 温かさを感じた一年間

研修旅行の久慈ツアーでは琥珀の歴史について

学び震災を生き抜いたウミガメのカメ吉に会う事もできました。心温まる癒しの研修旅行となりました。

年末には、講師の矢田部裕子先生をお迎えして水引きしめ飾り教室を開催し、たくさんの方が参加。自分だけの素敵な水引きしめ飾りで新年を迎えられたことと思います。PTA活動を通し、新たな出会いもあり皆さんに支えられた楽しい一年間でした。ありがとうございました。

同じような課題や悩みをもつ全国の保護者の皆様方と、有識者からの御講演を共に聞き、これからのPTA活動について考える良い機会になりました。

私自身は今年で高校PTAから離れますが、今後の糧としていきます。

## 広報委員会



委員長 雅之 工藤

### 感謝の思いと新たな希望

今年度も計画していた西峰を滞りなく発行することが出来ました。これも、先生方、撮影や寄稿依頼へ御協力いただいた皆様のおかげと心より感謝申し上げます。整った紙面づくりの為の研修会から始まった本格的な広報活動でしたが様々な生活環境下で行動を共にした広報委員の皆様にも重ねて感謝申し上げます。新年度を迎えてからの新体制の下で新たな発想が輝く紙面となりますことを祈念しております。

## 研修旅行

### 太古の時間にふれる小旅行

研修委員 齊藤 紋



### PTA校内研修会

### 故きを温ねて新しきを知る

一学年PTA 貝吹 尚寿

昨年十二月九日にPTA校内研修会「第三回水引きしめ飾り教室」が開催され、参加させていただきました。



間に目的地へ到着。

久慈琥珀博物館の職員の方から琥珀についての歴史やポイントの説明をしていただき見学した。虫入り琥珀を虫眼鏡で覗き、琥珀を敷いた床の上を歩いて癒しを体験。国内最大の琥珀の産地、久慈地方。久慈市の琥珀と世界の琥珀、産地によって色も様々に違うことに、驚き、新たな知識にわくわくした。



震災の影響からリニューアルオープンしたもぐらんぴあ水族館へ。大小たくさんのお水槽には、小さいながらも飽きさせない工夫が随所に感じられ楽しい時間だった。

これまで、正月飾りは既製のを飾るのが慣例となっていました。手作りという言葉に誘われての参加でした。

有限会社詩仙堂 矢田部裕子さん・三名のスタッフの皆さんの優しい指導と一緒のテーブルになった皆さんの協力のおかげで、何とか完成させることが出来ました。

正月飾りについてあまり考えたことはありませんでしたが、いろいろなパーツを飾り付けていく中で、その一つ一つに大切な意味があるということ、また今回使用した、水引も魔除けや紐を結ん

でいることから転じて人と人を結びつけるという意味があることを知りました。

出来上がったしめ飾りを飾り、良い新年を迎えることが出来ました。また、何十年ぶりで食べた学食のラーメンも美味しかったです。感慨深い時間となりました。しめ飾りづくりを通して先人の知恵に触れることが出来ました。

八戸西高五十周年を迎えます。先輩の皆さんが描いた理想と情熱、各期生の歴史の積み重ねで迎えた五十年を振り返るとともに新たな五十年へ向けた一年になれば良いなと思えました。

# 遠足 2023.10.3

## 一学年 十和田湖休屋周辺

一年生の遠足について

一年六組(担任) 逢坂 颯

令和五年度の一年生の遠足は奥入瀬溪流、子ノ口、十和田湖休屋周辺の散策と十和田湖観光遊覧船に乗りました。当日はカラッと晴れた良い天気になるかと思いきや、風が強くなり、一時は遊覧船が欠航になるところでした。しかし、臨時便が出るのとことで無事乗ることができ、十和田湖の景色を堪能することができました。休屋では湖岸で景色を眺めながら昼食をとるグループもいれば、食堂で十和田のグルメに舌鼓を打つグループもいて、各々がゆったりとした時間を過ごすことができました。十和田湖の魅力を五感で味わい、地元の良さを再確認した良い遠足だったと感じています。



## 二学年 東八甲田家族旅行村

二学年の遠足について

二年一組 大谷地 蓮華

十月三日に東八甲田家族旅行村でバーベキューをしました。私は野外で何かを食べたことがなかったため、初めての経験に期待しながら学校を出発しました。到着し最初に感じたのは風の強さで、心配しながらも具材を焼く準備をしました。不慣れなことが多かったり、いろいろなものが強風で吹き飛ばされそうになりましたが、協力し合ったことで乗り越えることができました。苦労を重ねて完成したマッシュマロはとても美味しかったです。また、自分で焼いて食べることが初めてだったので良い経験になりました。さらに、この遠足の日には英検の一次試験も近く、勉強による疲れやストレスが多少溜まっていたのですが、多くの緑に囲まれたことで息抜きすることができました。



## 三学年 小岩井農場

最後の遠足

三年一組 高屋敷 葵衣

私達三年生は、十月三日に小岩井農場へ行きました。遠足当日は爽やかな秋晴れで、絶好の遠足日和でした。何歳になっても遠足の非日常感は楽しいもので、行きのバス車内は大盛り上がりでした。小岩井農場に到着すると、羊や馬、牛などを愛でる人、アーチェリーやゴーカートなどを楽しむ人、ソフトクリームやピザといった牧場グルメに舌鼓を打つ人、持参したバットやボールでスポーツをする人や、岩手山を眺めながら語り合う人など、各々楽しんでいました。ハンモックでお昼寝をする人もいました。日々の疲れを癒すことができました。多くの三年生にとって人生最後の遠足でしたが、天気にも恵まれ、仲間と良い思い出を作る事ができたと思います。忘れられない遠足でした。



# 修学旅行 2023.12.5~9

## 普通科 奈良・京都・大阪

### 京都自主研修を通して学んだこと

二年二組 工藤 絢音・林 悠奈

自主研修では嵐山と祇園方面へ行きました。そこで私たちは二つのことを学びました。一つは、京都で多くの方に出会い、その温かさに触れられたことです。着物を着て京都市内を散策していると、日本人・外国人観光客と交流でき、充実して過ごすことができました。また、着物をレンタルした際、他のお客さんが私たちの荷物を間違えるというハプニングがありましたが、お店の方の迅速な対応と優しい声かけに私たちの不安も和らぎました。二つ目は計画の大切さです。スムーズに決まった計画ですが、京都に初めて来たワクワクした気持ちが溢れ、途中計画通りにいかないということがありました。改めて計画を見直すことで、雰囲気良く班で過ごすことができました。

この修学旅行では、一日一緒にいられたからこそ、仲間一人一人の性格をより知ることができ、交友関係を深められるよいきっかけとなりました。アクシデントもありましたが、様々なことを学ぶことができ、最高の修学旅行でした。



## スポーツ科学科 沖縄



### 歴史深く温かい沖縄県

二年六組 小野寺海月

私たちは修学旅行を通してたくさんの貴重な経験をさせて頂きました。スキューバダイビングでは八戸と比べ物にならないくらい透き通った海や、青森県内では水族館でさえも見ることができない魚たちに出会い、とても充実した時間を過ごすことができました。糸数壕での平和学習では、ここには昔、足の踏み場のないほどたくさんの人がいて見つからないように息を潜め、怯えながら何日間もこの壕にいたと思うと、鳥肌がたちました。戦争の恐ろしさを知っただけでなく、二度とこのような残酷な事が起きてはいけなくて改めて実感することができました。沖縄県は、気温も現地の方々も温かく、まだまだ帰りたくないほど最高の四泊五日でした。





# VIVA 青春 ソフトボール部



## ソフトボール部の活動について

二年一組 菅野 夢叶

ソフトボール部は現在、マネージャーを含めて八名で活動しています。東京五輪は優勝したものの、全国的にもソフトボールの競技人口は減り続け、市内の高校はほとんどが合同チームです。本校も例外ではなく、合同チームを組んでいるため、普段は一緒に練習をすることができません。私たちは初心者も多く、少人数ですが、練習内容を工夫しながら体力・技術の向上に努めています。

ソフトボールは多くの土地・用具・時間が必要です。他校は同じグラウ



ンドに複数の部活動が混在し、限られたスペースで練習している中、本校は敷地内に専用球場があり、練習環境に恵まれています。歴代の先輩方が「八戸西高等学校ソフトボール部」を築いてくれたお陰で私たちの活動が成立しています。心身ともに支えてくれる家族がいるから、困難を乗り越えることができます。一緒に活動している仲間がいるから、本校ソフトボール部の歴史のバトンを繋ぐことができます。

これからも私たちに關わる全ての方々、当たり前の日常に感謝しながら、ソフトボールを通して出会った仲間と切磋琢磨し、人間性や社会性を磨いていきたいです。



## 創立50周年事業

### 講演会を終えて

楽しく、豊かな未来に期待

6期生 吹上小学校 校長

川村 洋

母校創立五十周年記念講演会で講話する機会を設けていただいたことに感謝しております。講演当日は多くの後輩達の前で私が歩んだ五十九年間



## 一学年講演会を終えて

7期生 株式会社 齋代表取締役

大久保 圭一郎

この度は八戸西高校一学年の皆様に対し講演する機会を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

先輩と言ってもだいぶ年齢も離れてますし、何かに夢中になった高校時代を過ごしたわけでもなく後輩達に何を伝えられるか不安でしたが、お世話になって助川先生からの依頼だった事や母校の為に何かしなくてはという使命感で講演をお受けする事にしました。



で思い、感じ、考えたことを自由に語らせていただきます。後輩の皆さんに何か一つでも心に響くものがあれば幸いです。思っています。

私が初任者の頃、退職が近い先輩の給料を見て「うらやましいな」とと呟いたところ、その先輩は「この給料と先生の若さを交換してくれ」と言われたことを思い出します。今、私にはその気持ちがよくわかります。



そして勉強もスポーツも一生懸命になれず、ただ漫然と学生生活を過ごした自分が社会に出たら西高卒というだけたくさん先輩・後輩に良くしてもらったり、支えてもらっているという西高校の絆の強さを伝えたいという思いに至りました。

さらには社会に出てからのたくさんの失敗もありのままに話したのでどう受け取られるか不安でしたが、生徒の皆さんは興味を持ち、耳を傾けてくれました。

若さとは何事にも代えがたい宝物です。皆さんの未来が私以上に楽しく、豊かなものになることを願って止みません。がんばれ！後輩たち！



てくれました。

話の終わりに「朝市に出店するので西高生だと言ってもらえればサービスするよ！」と言ったら、その週の日曜日も翌週も親御さんと数名の生徒が「講演聞きました！凄く面白かったです」と訪れてくれたのはとても嬉しく思いました。

今回の講演で誰よりも自分自身が過去を整理し大切な事を再認識する事ができたと思います。拙い講演で先生やPTAの皆様がっかりさせてしまったかも知れませんが生徒達が反面教師から何か学んでくれたなら幸いです。

貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございます。

# 生活の技術(ワザ)を親子で



家庭科 誦訪 節子

西高に勤務して九年になりました。「家庭基礎」という科目を一年次二単位(二年生の時だけ、一週間に二時間の授業)担当させていただきました。これまでで約二千人の西高一年生と授業をしてきたことになりました。

家庭科では、常に「家族の絆」を意識して授業を展開して来ました。自分が家族の一員として生活していることの振り返りと展望を踏まえ、三年後には自立した生活を始める段階にあることへの理解を進めます(同時



の授業では、少しでもその手助けになればと思いい、調理実習は、グループ実習ではなく完全個別実習の形をとり、必ず全工程を一人で

に、お家の方にとっても、お子さんと過ごせる最後の三年間でもありません。ここ数年、家庭生活の中で生活体験の少なさを感じています。「先生、食器ってどうやって洗うんですか?」という言葉にはショックを受けました。調理をする際、不衛生や危険などを予測する力や同時進行で物事を進める力、作業効率や調理過程を組み立てる力などが極端に落ちていると感じます。西高を巣立った生徒たちは、社会の中でリーダー的役割を担う者が多い中で、生活の自立ができないと健康を始め、他のことまで支障をきたすことにもなりかねません。家庭科

体験させるようにしています。毎回テスト形式で、六十点という合格点に達するまで再テストをします。「まずは、それぞれのお家にはりつばな先生がいらいっしやるから、きちんと聞きなさい。」と、調理実習の説明では伝えます。実は、家族で、家庭科の話題で会話が進むことをねらいとした「作戦」でもあります。クリスマスには、ケーキワンホールをデコレーションしてお家に持ち帰ったことと思います。保護者会では「家庭科のおかげで子どもとたくさん話が出来た」とありがたいお言葉もいただいたりもしました。ここ数年はコロナ禍ということもあり、調理実習の回数が格段に少なくなりましたが、厚焼き卵、コンソメジュリエンス、マドレーヌ、茶碗蒸し、炊飯、おにぎり、豚肉と野菜の炒め物などの実習をしてきました。今までに出会った約二千人の生徒は、全員が厚焼き卵やスープ、マドレー

又など、一応は作れるということになりました。子どもが自立した生活を送れないと子どもは元より、親も困ります。高校生活三年間の中で、これから自立した生活をしていくための技術(わざ)を是非とも共有して行くことを願っております。

体験させるようにしています。毎回テスト形式で、六十点という合格点に達するまで再テストをします。「まずは、それぞれのお家にはりつばな先生がいらいっしやるから、きちんと聞きなさい。」と、調理実習の説明では伝えます。実は、家族で、家庭科の話題で会話が進むことをねらいとした「作戦」でもあります。クリスマスには、ケーキワンホールをデコレーションしてお家に持ち帰ったことと思います。保護者会では「家庭科のおかげで子どもとたくさん話が出来た」とありがたいお言葉もいただいたりもしました。ここ数年はコロナ禍ということもあり、調理実習の回数が格段に少なくなりましたが、厚焼き卵、コンソメジュリエンス、マドレーヌ、茶碗蒸し、炊飯、おにぎり、豚肉と野菜の炒め物などの実習をしてきました。今までに出会った約二千人の生徒は、全員が厚焼き卵やスープ、マドレー



## PTA委員との合同、交通安全街頭指導(あいさつ運動)

今年度もPTA委員(健全育成委員会)との二年回の「交通安全街頭指導」と「あいさつ運動」に参加させて頂きました。新型コロナウイルスの影響もすっかり落ち着き西高生本来の明るく元気な挨拶ができるようになりました。

これからは「ありがとう!」と言える自然体」の生徒像を目標に、凡事徹底(何卒)

(助)



# 進路状況について

進路指導主任 宮 重 太 一

現三年生の志望動向は表のようになっています。七十%弱が四年制大学、二十%強が短期大学・専門学校、十%が就職を志望しています。就職の割合は例年と大きな差はありませんが、四年制大学志望者の割合が一割ほど多くなっています。国公立大志望者の割合は昨年度と同程度の二十五%（四月時点での国公立大志望者は三十五%。約二十名が私立大学への志望変更）、ここ数年の割合はほぼ同程度となっています。現時点での進路決定率は六十五%で、昨年度と同程度の割合です。今年度は、これから試験に臨む生徒は八十名ほどおり、担任団・生徒で団結して試験に向けて頑張っているところです。

近年の大学受験事情についてお知らせします。年内入試（総合型・学校推薦型での入試）で入学を決める生徒が半数を超えています。これは、国公立・私立のすべての大学をあわせた割合です。国公立大学における年内入試で入学する学生の割合は二十%程度です。公立大学を目指す

生徒には一般試験に挑戦し、最後まで粘り強く取り組んでもらいたいと願っています。また、国立大学の後期試験（三月中旬実施）における辞退者の割合が年々増加傾向にあり、六十%を超える受験者が辞退をしています。あきらめずに頑張った生徒にはチャンスが広がっている状況になっています。

就職に関しても、例年どおり保安系公務員の人気が高く、十名が警察・消防・自衛隊に合格を決めています。民間企業においては二名が内定を得ました。現三年生は、二年次まではコロナ禍に置かれ、オープンキャンパスや看護体験などへの参加が制限されました。三年次から対面でのオープンキャンパスが多くの学校で再開されました。一・二年次に対面でオープンキャンパスに参加することができなかつた生徒は、準備に苦労したと思います。その中でも、大学研究（アドミッシヨンポリシーの研究）・課題研究と志望理由書の接続・基礎学力育成をしつかりと

行うことができた生徒は年内入試でも健闘しました。

一・二年生には、まずは普段の授業（並びに講習）を大切にして基礎学力を育成してもらいたいと思います。さらに総合的な探究の時間における課題研究を充実させて、志望理由書との接続までつなげてください。そして情報収集に努め、早い時期から進路について具体的に考え、その分野についての知識を深めていってほしいです。このことは、東北地区の国公立大学関係者も口をそろえて「『基礎学力の充実』と『探究からの接続』を学生に求めたい」と話していることにつながります。

全校生徒が、それぞれの時期に応じた学びをしてくれることを期待しています。

### 3学年の進路志望動向 (R6.1.25 現在)

校種	志望者数	
	国公立	私立
4大	152	58
短大		94
専門・他	6	
就職	46	
その他	16	
計	2	
	222	

## 令和5年度 進路状況

### 学校推薦型選抜・総合型選抜での主な合格先 (R6.1.25 現在)

#### 【4年制大学】

弘前大学	北翔大学	仙台大学	駿河台大学	拓殖大学	武蔵野大学
岩手大学	日本医療大学	東北学院大学	日本医療科学大学	帝京大学	東京有明医療大学
山形大学	北海道武蔵女子大学	東北工業大学	清和大学	東海大学	関東学院大学
公立はこだて未来大学	八戸学院大学	東北生活文化大学	中央学院大学	東京工科大学	桐蔭横浜大学
青森公立大学	八戸工業大学	東北福祉大学	桜美林大学	東京女子体育大学	帝京科学大学
札幌大学	青森中央学院大学	東北文化学園大学	国土館大学	東京農業大学	奈良大学
札幌国際大学	盛岡大学	日赤秋田看護大学	昭和女子大学	日本体育大学	
北海道医療大学	岩手保健医療大学	城西大学	女子栄養大学	法政大学	

#### 【短期大学】

山形県立米沢女子短期大学	八戸学院大学短期大学部	仙台青葉学院短期大学
--------------	-------------	------------

#### 公務員の合格先

八戸広域市町村圏事務組合消防	青森県警察	航空自衛隊一般曹候補生	海上自衛隊一般曹候補生
陸上自衛隊一般曹候補生	航空学生		

## 創立から五十年の 八戸西高

教頭 加藤 聡

本校は今年、五十年の大きな節目を迎えます。昨年十一月に記念事業実行委員会を組織し、現在、急ピッチで記念誌制作等の準備作業が進められています。実行委員会の会長に斎藤学成後援会理事長、同副委員長に松井正文同窓会会長と河村泰輔父母と教師の会長、そして坪宏至校長の三名が就任しました。また、十一月一日、八戸市公会堂に於いて、五十周年記念式典と講演会を行い、その後、八戸プラザホテルで祝賀会を開催します。

西高は自啓自発の思いを継承して参ります。

### 編集後記

「西峰八十五号」をご覧いただきありがとうございます。特異的な感染対策が緩和された一年間となりました。今年度も原稿にご協力いただきました先生方、生徒の皆さん、そしてPTAの皆様から感謝申し上げます。

広報委員長 工藤